

たがだの一年

この行事一覧表は昭和 15 年頃のもので、昭和 20 年の敗戦、昭和 30 年の町村合併、そして高度経済成長による生活様式の変化に伴い、現在では行われなくなった行事が数多くあります。昔の人々は神や自然に対して日々感謝しながら暮らしていたことがうかがえます。

1 月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
1 月 1 日 (元旦)	がんちょうまい 元 朝 参 り	早朝に近隣の神社にお参りをする。	餅料理(あんこ餅、くるみ餅、ごま餅、お雑煮) なます、煮しめ、がんづき、ゆべし、ようかん
	わかみず 若水くみ	やぬし としおとこ 家主か 年 男 が夜明けに新しいひしゃくで井戸水を汲み、これを用いて炊事をする。	
2 日	しごとはい 仕事始め	家々の仕事によって、初売り、初荷、出初め、縫い始めなどの行事を行う。	
5 日	ご がんいち 五元日	ふくとり 福取り餅を神棚に供え、後で下ろして家内 中 で分けて食べる。	ふくとり 福取り餅
6 日	つめ き ゆ 爪切り湯	夜に風呂をたて、入浴後、新年になって初めて爪を切る日。この日に爪を切ると、一年中のいつ爪を切ってもよいとされる。	
7 日	ななくさ 七草	朝、七草を入れた粥(かゆ)を家内 中 で食べる。	七草粥(せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ)
	かどまつおき 門松納め	かどまつ おとしなわ 門松と御年縄(家の入り口や神棚に飾られるしめ縄)を取り下げる。	
8 日	やまい 山入り	山に入り「山の神」を拝み、山の行事や作業が無事に終わることを祈願して、小正月用のミズの木などを切る。	
9 日	もち お餅ふぐし	小豆粥(かゆ)を煮て、硬くなった餅を入れて柔らかくして食べる。	小豆粥(かゆ)
11 日	のう 農はだて	農作業の仕事始めの日。	
	かみあそ 神遊ばせ (神おろし)	婆様たちが集まりオガミサマ(巫女)を呼び、一年を占ってもらう。	
12 日	やま かみさま 山の神様	山仕事をしている者は休みになり、山には入らない。生米の団子 12 個を山の神に供える。	赤飯、餅料理
14 日	もち お餅とり	小正月の飾りつけをする。ミズ木団子、マユ玉、あわぼ 粟穂、まめ 豆穂、稲穂などの種類がある。秋の豊作を表す。	



時 期	行事名	内 容	主な行事食
1 月 15 日	こしょうがつ としと 小正月の年取り (年越し)	女の年取りとも呼ばれ、女性はこの日を休日とし、炊事などはすべて男性が行う。	餅料理、魚料理、 甘酒、酒 
	なりき ぜ 成木責め (望伐り)	柿などの果樹の生育を促すための儀式を行い、 ほうじゆく 豊熟を祈願する。	
	サセゴ (カセドリ)	晩に厄年の者が近隣の家々を訪問して、餅やお金をもらって歩く。	
	ヒガタタグリ	鬼のようなヒガタタグリの扮装をして、家々を回って歩く。怠け者を いまし 戒める行事。	
	あくまばら 悪魔払い	各町内の権現様（獅子舞の頭のこと）が、悪魔払いのため、笛や太鼓のはやしにあわせ、踊りながら家々を回って歩く。	
16 日	ごいわ 御祝い	広田や長部の漁家では、漁業（船に関わる人） しゆくえん に関わる人が集まり祝宴を開き、大漁を祈願する。	赤飯、煮しめ
	はつてらまい 初寺参り	しよぶつ 諸仏（様々な仏様）を拝む。「地獄のフタを開く」といい仕事を休む。餅を食べない日とし、 しょうじんりょうり 精進料理（肉や魚を使わない菜食中心の料理）を食する。	しょうじんりょうり 精進料理
	とりぼ 鳥追い	穀物を鳥に荒らされないよう、缶や板などたくさんものを持ち、田や畑に出て音を出しながら回る。	
	オシラサマ遊ばせ	女性たちが集まり、年に1度オシラサマに新しい衣装を着せる。	
18 日	おじゅうはち や 御十八夜	いんれき じゅうはち や 陰暦の十八夜の月を待って行うお籠り（神社や寺、集会所などに集まり祈願などをする）の行事。お膳を供えて拝む。この日は魚を食べない。正月、5月、9月の十八夜に行われる。	餅料理、赤飯
20 日	はつ かしょうがつ 二十日正月 (団子下ろし)	朝食前にミズ木団子を下ろし、小豆粥（かゆ）に入れて食べる。	ミズキ団子入り小 豆粥、小豆御飯、
	えびす こう 恵比須講	夕方各家では掛け図を掛け、尾頭付きの焼き魚と み き お神酒を恵比須様と大黒様（だいこくさま）に供えて拝む。	焼き魚、酒
31 日	やくな 厄投げ	厄年の者が、お金や小さく切った餅を紙に包み（ツトッコ（つと）と呼ばれる）、道の十字路の真ん中で後ろ手で投げて帰る行事。	餅
	とまどふさ 戸窓塞ぎ	夕方家のすき間に、割った竹に餅と魚を挟んだものと、栗の木の枝、蔦の枝の三種類を挿してすき間をふさぎ、 あくじん 悪神の進入を防ぐ。	

2月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
2月1日	こまつ しょうがつ 小松の正月	厄年の人は厄を払うため祝い事をする。	餅
	からす としとり 烏の年取り	かどぐち 門口に松と栗の枝を挿し、その先に小さく切った小豆餅、白い餅をのせ、 ^{からす} 烏 その他の動物に食べさせる。 ^{ちょうがい} 烏害を防ぐための行事。	
3日	せつぶん 節分	立春の前日をいう。夕方、煎った豆を ^{ます} 杵に入れ、神棚に供えたあと豆まきをし、歳の数だけ食べる。	
8日	はりくよう 針供養	針仕事を休み、折れた針の供養をする。	豆腐、こんにゃく料理
2月最初の午の日	はつうま 初午	2月の「 ^{うし} 午の日」は ^{いなりさま} お稲荷様の春祭りとされた。この日に味噌造りをする ^と と良質な味噌ができるとされ、 ^{こうじ} 麹 を入れない豆だけの味噌をつくった。	

3月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
3月3日	もも せつく 桃の節句	女子の節句。雛人形を飾り、ひし餅と桃の花などを供え祝う。男子は野や山で弓矢を持ち、的打ちをする。	ひし餅、草（よもぎ）餅、甘酒、おすし、赤飯 
	しおひが 潮干狩り	一年で一番 ^{かんまん} 干満の差がある日なので潮干狩りをする。	
16日	じゅうろくだんご 十六団子 (十六饅頭)	大きな団子16個を杵に入れ、神前に供え ^{のうがみさま} 農神様を拝む。	十六団子
20日	しゅんぶん 春分 (春の彼岸)	寺参り・墓参りをし先祖代々の ^{くよう} 霊を供養する。この日をはさんで前後7日間が春の彼岸である。	ぼたもち、団子、うどん、赤飯、彼岸餅

4月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
4月8日	うづきようか 卯月八日	しゃかさま お釈迦様の誕生日で、寺院では ^{はなみどう} 花御堂が飾られ、参拝者は ^{あまちゃ} 甘茶を注ぎ、いただく。	赤飯 

花御堂イメージ

5月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
5月5日	たんご せつく 端午の節句 (菖蒲の節句)	男子の節句。鯉のぼりを立てる。 ^{むびょうぞくさい} 無病息災と ^{じゃき} 邪気を払うため、日中から ^{しょうぶゆ} 菖蒲湯をたて、婦人は菖蒲を髪に飾り、男の子は菖蒲で ^{はちまき} 鉢巻をする。菖蒲とヨモギを ^{のきさき} 軒先に挿す。	柏餅、草（よもぎ）餅、餅料理 
18日	おじゅうはちや 御十八夜	1月18日と同様の行事。	餅料理、赤飯

6月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
6月1日	はがた 歯固め (氷の朔日)	正月の餅を凍み餅にしておいたものを食べる。 歯や体が丈夫になり厄除けになる。	凍み餅、小豆御飯
15日	のうがみさま さくまわ 農神様の作回り	麦殻で馬2頭を作り田や畑に置き、農神様に供える。	赤飯、煮しめ
	てんのうさま お天王様	きゅうりなどのはつもの 初物をお天王様にささげる。	

7月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
7月7日	ちゃた お茶立て	なのかひ 七日日といい、早朝に墓掃除を行い、新仏が ある家に親戚や近隣の人々が仏様を拝みに行く。	甘酒、うどん、と ころてん、煮しめ (お茶立て)、小豆 ばっとう、赤飯
	たなばた 七夕	気仙町今泉のけんか七夕や高田町のうごく七夕など、各地で山車七夕などを行う。	
12日	ぼんいち 盆市	高田町の盆市の日で、お盆中の品々を買い求めに行く。	
13日	むか ぼん 迎え盆 (盆入り)	仏壇を清掃し、ぼんだな 盆棚を作り、供物を供える。庭 に灯籠を立てる。夜は迎え火(ラッコク)を 焚く。	うどん
14日	てらまい 寺参り (墓参り)	家族一同で未明に起床してお寺に行き、墓参りをする。団子、おこわ、煮しめ、花などを、ハスの葉に盛り供える。	団子、おふかし、 煮しめ、ところてん、がんづき
16日	おく ぼん 送り盆	午前中に、ハスの葉に供物や線香をのせ、川や海に流す。	おふかし、煮しめ、 ところてん
20日	は っ か ぼん 二十日盆	仏前にちょうちん 提灯を灯して、ラッコクをた 焚き精霊 を送る。川では灯籠流しを行う。	おふかし、煮しめ、 ところてん
30日	みそか ぼん 盆	盆月の終わり。おこわ、煮しめなどを仏壇に供える。灯籠流しを行うところもある。	おふかし、煮しめ、 ところてん

8月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
8月1日	はっさく 八朔	農家の休日、実った稲穂を神棚に供え、成熟を祈る。	
15日	えんがわ お明月様	縁側に机を出して、団子や作物などを飾り、お月様を拝む。	団子、餅、小豆御飯、くり、枝豆、果物

9月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
9月9日	菊の節句	菊の節句といい、餅をついて祝う。	餅、赤飯、団子
12日	山の神	婦人たちが集まり、安産・子安などの神としてお祝いする。山仕事をしている家では休業し、神棚に餅、お神酒などを供える。	赤飯
16日	十六団子	3月16日と同様に、枅に十六団子を入れて農神様に供える。	十六団子
18日	御十八夜	1月18日と同様の行事。	餅料理、赤飯
19日	氷上神社祭典 (お氷上様)	農作業の麦まきが終わった時期、この日の夜に氷上山に登って、日の出を拝んで氷上三社（東御殿・中御殿・西御殿）を参拝する。氷上山の山頂では芋の子汁を作って食べ、お祝いする。	芋の子汁
23日頃	秋分 (秋の彼岸)	秋分の日で、春分の日と同様に墓参りなどをする。この日をはさんで前後7日間が秋の彼岸である。	おはぎ、団子、うどん、赤飯



10月

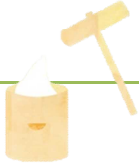
時 期	行事名	内 容	主な行事食
10月1日	お刈り上げ	稲の刈り取りの最終日。餅をつき、団子をつくり、菊を添えて農神様を拝む。氷上山に登って氷上三社に感謝する。	餅、団子
10日	大根の年取り	この日の夜に大根を抜き取ってはいけないという。神前に大根を供える。	
20日	恵比須講	生きた魚を神前に供え、大漁や商売繁盛を祝う。	白飯、煮しめ、刺身、焼き魚、小豆粥、餅、酒

11月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
11月15日	油 締め	冬の寒さに備え、この日に必ず油気のある物を食べる。	団子
	お立木迎え	山から木を切り出し、正月用に木や柴を二束にまとめておき、家の中に立てておく。	
16日	観音講	若い嫁達が集まり、観音様を祭り一年間の骨休みをする。嫁に続き、主婦達、婆様達の会合が行われる。	
23日	大師の粥 (大師講)	団子や小豆粥を作って神に供え、萩で作った大師の杖と称する長い箸と短い箸を添える。	団子、小豆粥



12月

時 期	行事名	内 容	主な行事食
12月1日	みず とうふ 水こぼしの豆腐 (みず 水こぼしの朔日)	豆腐一丁を切って竹串4本に刺し、炉端で乾燥させた後、水をかけて庭端に立て、火災を防ぐための祈願をする。	
10日	だいこくさま おん大黒様 (だいこくさま よめと 大黒様の嫁取り)	普通の大根（婿大根）と二股大根（嫁大根）をそれぞれお膳にのせて神棚に供える。この日は大根は食べてはならない。	煎り豆、田楽、白飯、餅、団子
12日	やま かみ 山の神	神棚にお神酒をあげて拝み、白飯を食べ、餅をついてお祝いする。この日は山仕事はせず、集会して盛大に祝う。	餅、白飯、赤飯
18日	オツメバライ	18日頃から大安の日を選んで、すす掃きをする。すす掃きの夜豆まきをする。	
20日	しまいえびすこう 終恵比須講	掛け軸を掛け、小豆御飯、尾頭付き焼き魚（オハマヤキ）を供えて祝う。漁で採れた魚を枡にのせて、神棚に供える。	小豆御飯、焼き魚、酒
25日	つめまち 詰市	高田町で市が開かれ、正月の必需品を買い求める。	
27日	ススガミサマ すすがみさま (煤神様)	神棚にお膳を2つ、お神酒、白飯、小豆御飯、汁、魚など5品を供える。	
28日	もち 餅つき	おおむねこの日に餅をつく。お供え用のもちを何組もつくり、その他はのし餅（薄く平らに伸ばした餅）にしておく。	餅
31日	としこ 年越し (としと 年取り)	かどまつ しめなわ 門松、注連縄などを飾り、正月の準備を終え、神前にお膳を供えたあと年越しのご馳走を食べる。	焼き魚、刺身、茶碗蒸し、白飯、お吸い物、柿なます

「陸前高田市 食のカレンダー」「陸前高田市史 第五巻 民族編（上）」より抜粋

